

3 先生のための「勇気づけ」レッスン

「勇気づけ」の心構えをいくら聞かされても「実際にどうすればいいのだ？」という疑問を持たれる方もいるでしょう。そのとおりです。物事の本質に触れるときに、スローガンだけではわかりません。まずはやってみることに。そのためには、具体的な方法を知ることが必要です。

ここからは、勇気づけ教師になるための方法をいくつかご紹介します。

あるもの探し

勇気づけをする教師は、「あるもの探し」の名人でありたいものです。

私たちが勇気をくじかれるときのひとつ、それは「ないものねだり」をされたときです。「もつとくだったら」「くさんに比べてあなたは」「あなたの欠点は……」と言われたら、どんな気持ちになりますか。積極的な人は発奮してテンションが上がるかもしれませんが、多くの人はやる気を失います。たしかに、人の欠点はよく目につくのです。ですから私たちは、気をつけていないと「ないものねだり

体質」に陥ってしまうことがあります。子どもの未熟な点を伸ばすことは教師の仕事ですから、子どもが持つていないものに気づく力は必要です。しかし同時に、子どものできていることをさらに伸ばすことも教師の大事な仕事ですから、子どもが持つているものを見抜く力が必要なのです。

子どもは発掘されていない宝の山です。しかし、「ないものねだり体質」の人には、その宝が見えません。宝が地面に顔を出しているのに、見過ごしてしまうこともあります。しかし、「あるもの探し体質」の人は、どんなに地中深く宝が眠つていようと、敏感に見つけ出すのです。その人にとっては「ある」ものなのですから、探すというより、「どれがそうなのだろう」というくらいのもので、ときには転がっている石ころにも価値を見出し、寶石として扱うこともできるわけです。勇気づけの基本は、子どもの持つ長所や能力に注目することです。

では、さっそくやってみましょう。

Q1

自分のよいところを、一分間で一〇個あげてください。

⑤ ④ ③ ② ①

⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥

どうですか。意外と難しいですよ。多く挙げられれば幸せなことですが、多ければよいというものでもないでしょう。

他者を勇気づけるには、まず、自分に勇気があることが必要だといわれます。自分にダメ出しをしていては勇気がわいてきません。自分にダメ出しをする癖がついている人は、ときどき自分の「あるもの探し」を試してみてもどうでしょうか。

自分のよいところを探すことは、勇気づけのよい準備運動になります。

行為と人格を分ける

次の問題に答えてください。

Q2 最近、学級の子どものしたことで一番腹が立ったことはどんなことですか。

Q3 その子どもがそれをしたのは、どんな理由（目的）があったからですか。

Q2で、例えば、「A君が自習中に騒いだこと」を挙げたとします。

すると、Q3では、「自習課題がわからなかった」「自習課題が少なかった」「休憩時間に友達とケンカしてイライラしていた」などのことが挙げられるでしょう。つまり、A君は、自習ができない問題児ではなく、騒いだのにはそれなりの理由があるのとらえることができます。

この問題の意図は、子どもの行動と人格を分けて考える練習です。

子どもが問題行動をすると、「あの子はどういう性格をしているんだ？」と子どもの人格にまで疑いを持ちたくなることがあります。特に、繰り返し同じことをした場合は、いつそう強くそう思うことでしょう。

しかし、問題行動は、子どもの行動のすべてではなく一部なのです。子どもの行動は、人格そのものではありません。自習中に騒いだ子どもの行動と、その子ども自身を分けて考えます。

子どもの行為と人格を同一視すると、「この前も注意されたじゃないか！ どうして同じことをするんだ。ダメじゃないか」と怒鳴りたくなります。しかし、それでは彼が適切な自習の仕方を学ぶことはできません。アドラー心理学の目的論のところでは述べたような、叱られることで「注目を引こう」としている子どもだったら、自習中に騒ぐ行為を助長しかねません。

行為と人格を分けることで、「A君は、今回（も）間違っただけで、A君はこの事態を解決できる力がある」と信じてことができます。問題の行為ばかりにとらわれると、子どもの能力や可能性を見過ごしてしまいかねません。「なにがあつたのかい？」と自分の行いを振り返らせることにより、自習課題の問題点や彼の友人関係のトラブルが見えてきます。それらを解決すれば、彼は自習ができる

よくなるかもしれません。

「行為と人格を分けること」は、人は不完全であり人は失敗をするものだという前提に立つことです。私たちも含めて、完璧な人間はいません。立派な行いをしたときだけ認められるのでは、自分自身の存在に価値を見出すことはできません。うまくいってもうまくいなくても受け入れられることで、自分はありのままでもいいんだと思えるのではないのでしょうか。

ありのままを認める

では、「ありのままを認める」には、どんな対応が考えられるのでしょうか。次の場面で、考えてみましょう。

Q4 リカさん（小五女子）が、百メートル走で一位になって喜んでいきます。どんなひと声をかけますか。

- ① すごいね！
- ② さすがだね！
- ③ 嬉しそうだね！